

第 16 問

第 1 小問(1)

1 本件でAはCに対して、所有権に基づき甲の返還を請求している。Aの請求が認め
2 られるためには、Aが甲の所有権を有していることが必要である。では本件でAは甲の
3 所有権を有しているといえるか。

4 2(1) まず、Aは自己が所有する甲を500万円で売却する旨の意思表示をし、Bがこ
5 れを承諾しているため、売買契約を原因としてBに甲の所有権が移転しているとも
6 思える。

7 しかし、Aの意思表示は、冗談によるものであって真意ではない。このような場合
8 でもBは有効に所有権を取得することができるか。

9 (2) この点について、93条1項は、「意思表示は、表意者がその真意ではないことを
10 知っていたときであっても、そのためにその効力を妨げられない。ただし、相手方が
11 その意思表示が表意者の真意ではないことを知り、又は知ることができたときは、そ
12 の意思表示は、無効とする。」と規定する。

13 (3) そのため、本件でAの意思表示が真意でなくても、93条1項により、AB
14 間の売買契約は原則として有効である。

15 しかし、BがAの意思表示について真意でないことを知り（悪意）、又は知ること
16 ができた（有過失）場合には、AB間の売買契約は無効となる（93条1項）。

17 (4) よって、BがAの意思表示が真意でないことについて、悪意又は有過失であれば、
18 Bは甲の所有権を有していないことになり、Aの請求は認められる。

19 3 ではBがAの意思表示が真意でないことについて、悪意又は有過失であった場合、
20 Cは全く保護されないか。

21 この点について、93条2項は、「前項ただし書の規定による意思表示の無効は、善
22 意の第三者に対抗することができない。」と規定する。

23 したがって、本件でCは事情を知らずにBから甲を買い受けているため、「善意」の
24 第三者にあたる。よって、Aはその無効をCに対抗することはできないため、Aの請求
25 は認められない。

第 2 小問(2)

26 1 本件でAはCに対して、所有権に基づき乙土地の返還を請求している。

27 Aの請求が認められるためには、Aが乙土地の所有権を有していることが必要であ
28 る。では本件でAは乙の所有権を有しているといえるか。

29 2(1) 本件では乙土地についてAB間で売買契約が締結されているため、当該売買契約
30 により乙土地の所有権はBに移転しているようにも思える。

しかし、本件の売買契約はAが自己の債権者Dから差押えを免れるため、Bと通じて行った仮装の売買契約である。

このような場合でも、Bに乙土地の所有権は移転するか。

規定するため、本件AB間で締結された乙土地の売買契約も無効である。

(3) そうであれば、本件の売買契約がAとBが通じて行った虚偽のものである以上、94条1項により売買契約は無効となる。

したがって、乙土地の所有権はBに移転していないことになるため、原則としてAの請求は認められる。

3 しかし、94条2項は、「前項の規定による意思表示の無効は、善意の第三者に対抗することができない。」と規定する。

本件でCは事情を知らずにBから乙土地を買い受けているため、「善意の第三者」に該当する。

よってAの請求は認められない。

以上